

産業建設常任委員会審査日程

日 時 令和3年9月10日(金)
一般会計予算決算常任委員会終了後
場 所 第2委員会室

審査内容

所管事務調査 水道事業について

山陽小野田市議会 産業建設常任委員会

宇部市・山陽小野田市
水道事業広域化の検討状況について(報告)

令和3年(2021年)9月

山陽小野田市水道局

水道事業広域化検討に係る経緯

2013年(平成25年) 4月	両市の事業管理者において、将来の広域化について調査研究することが確認された。
2013年(平成25年) 7月 ↳	両市の中堅職員それぞれ4名で構成する水道事業広域化研究会を設置した。
2014年(平成26年) 7月	水道事業広域化研究会が一年間の調査研究の結果を報告書として取りまとめた。
2015年(平成27年) 2月	両市長会談により水道事業広域化を検討し推進することが確認された。
2015年(平成27年) 6月 ↳	宇部市・山陽小野田市水道事業広域化検討委員会第1回会議を開催した。
2021年(令和3年) 8月	宇部市・山陽小野田市水道事業広域化検討委員会第13回会議を開催した。

両市の施設及び経営の状況

	宇部市		山陽小野田市	
通水開始	1927年(昭和2年)4月		1931年(昭和6年)4月	
浄水場	中山浄水場	広瀬浄水場	高天原浄水場	鴨庄浄水場
稼働年月	1927年(昭和2年)4月	1973年(昭和48年)6月	1949年(昭和24年)5月	1952年(昭和27年)6月
処理能力	34,000m ³ /日	86,000m ³ /日	32,500m ³ /日	15,800m ³ /日

		2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
施設利用率(%)		46.8	46.5	47.3	46.9	44.8	45.3	48.3	48.9	48.9	49.1	48.3	48.1
管路経年化率(%)		14.28	15.40	15.00	15.80	15.70	16.10	27.60	29.71	32.13	34.27	38.10	40.40
耐震化率	浄水場						51.70						-
	配水池						49.00						14.60
	管路						20.40						21.97

(注) 管路の耐震化率は、埋設されている地盤の性状(例えば軟弱地盤や液状化しやすい埋立地など)を勘案して算出した率(「耐震適合率」という。)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
有収水量(千m ³)	18,690	18,613	18,561	18,395	18,097	18,185	7,396	7,455	7,457	7,426	7,302	7,316
水道料金(百万円)	3,485	3,476	3,480	3,460	3,403	3,390	1,299	1,312	1,318	1,318	1,302	1,293
有収率(%)	90.8	91.5	89.6	89.6	92.1	91.6	86.6	86.5	86.6	85.9	85.5	86.3
損益(百万円)	632	716	717	594	523	486	181	252	212	72	172	162
経常収支比率(%)	119.5	123.0	123.0	118.3	116.0	111.6	119.3	121.3	117.1	105.1	113.2	113.1
企業債残高対 給水収益比率(%)	318.5	303.9	294.4	286.6	287.2	286.9	336.0	399.0	392.8	383.0	372.1	373.0

両市の施設の更新需要額

宇部市の期間別の更新需要額

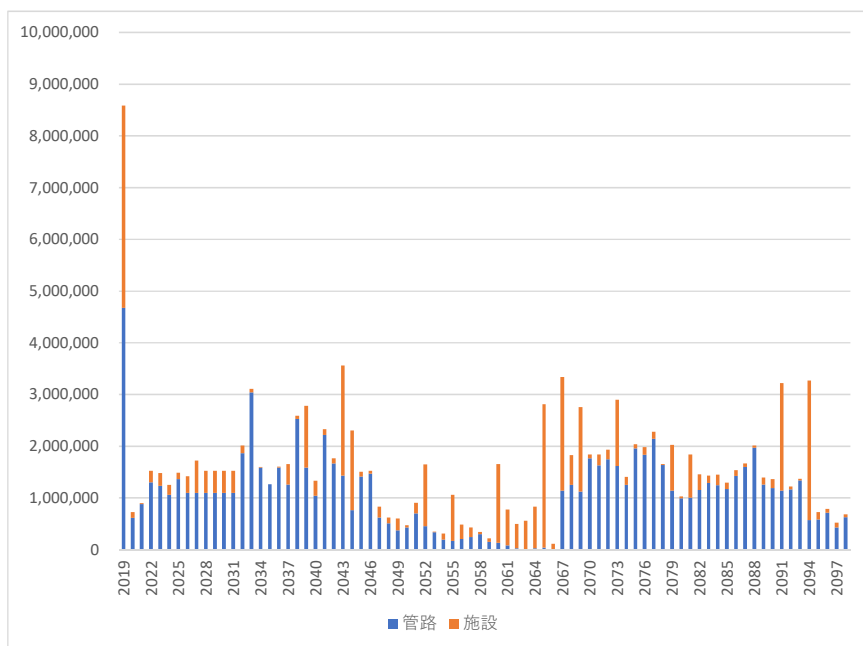
(単位 上段:千円、下段:%)

期間	2019～2058	2059～2098	2019～2098
管路	47,009,623	41,593,725	88,603,348
	53.1	46.9	100.0
施設	17,227,227	21,967,095	39,194,322
	44.0	56.0	100.0
計	64,236,850	63,560,820	127,797,670
	50.3	49.7	100.0

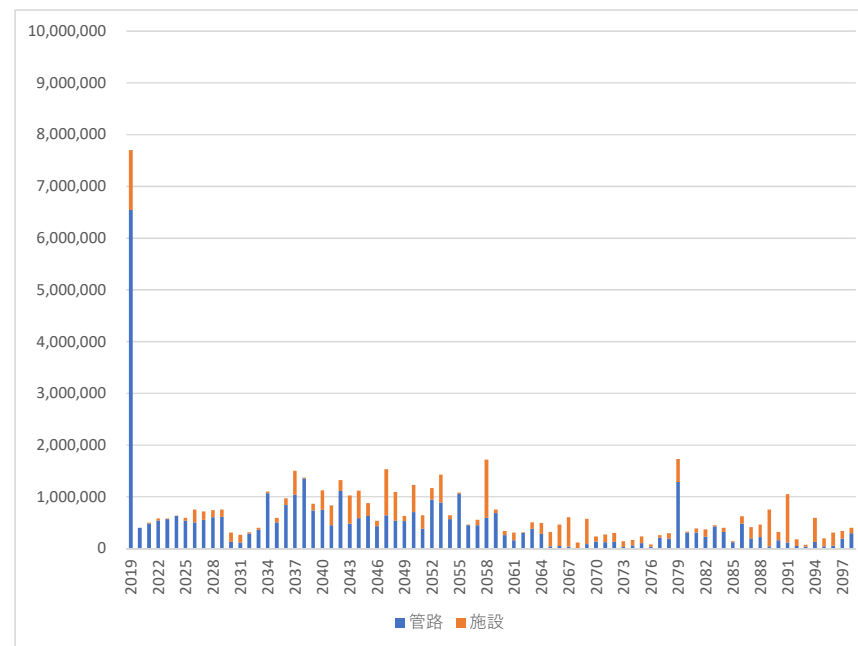
山陽小野田市の期間別の更新需要額

(単位 上段:千円、下段:%)

期間	2019～2058	2059～2098	2019～2098
管路	30,634,384	8,332,032	38,966,416
	78.6	21.4	100.0
施設	10,068,869	7,972,906	18,041,775
	55.8	44.2	100.0
計	40,703,253	16,304,938	57,008,191
	71.4	28.6	100.0



宇部市 更新需要額



山陽小野田市 更新需要額

- (注) ① 厚生労働省水道課が公表している「アセットマネジメント(簡易支援ツール)」を用いて、2019年3月末時点での資産を基に算出した。
- ② 施設の耐用年数は、地方公営企業法施行規則に定める耐用年数ではなく、厚生労働省水道課が公表している「実使用年数に基づく更新基準の設定例」を参考にし、両市で定めた。

検討委員会での確認事項 [その1]

1. 広域化の形態

- ① 両市の水道事業を所管する一部事務組合(企業団)を設置する。[地方公営企業法第39条の2]
- ② 両市の水道事業を統合し、新たな水道事業を創設する。
- ③ 財務会計は、セグメントにより整理する。[地方公営企業法施行規則第40条]

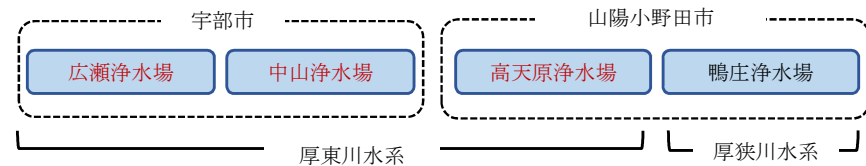
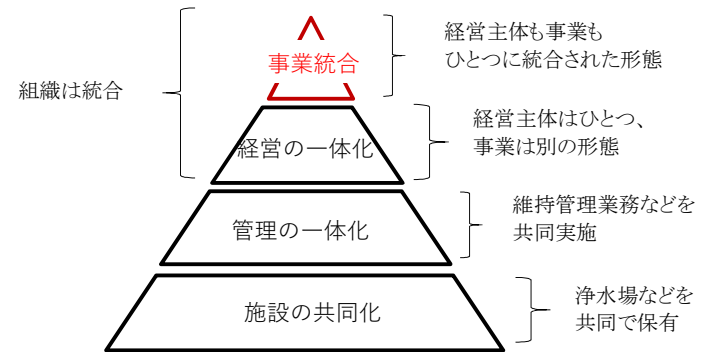
2. 水道料金

広域化時に、現行の宇部市の水道料金体系に統一する。
(山陽小野田市に、宇部市の水道料金体系を適用)

3. 浄水場の再編

厚東川水系の宇部市の広瀬浄水場、中山浄水場、山陽小野田市の高天原浄水場
→ 広域化後、高天原浄水場及び中山浄水場を順次廃止し、広瀬浄水場一か所とする。

《 広域化の形態の種類 》



4. 将来の更新需要額の比較(60年間)

(単位:百万円)

宇部市 山陽小野田市	広域(A)	単独(B)	差引 (A - B)
管路	92,038	95,304	-3,266
管路以外	42,320	44,778	-2,458
合計	134,358	140,082	-5,724

(単位:百万円)

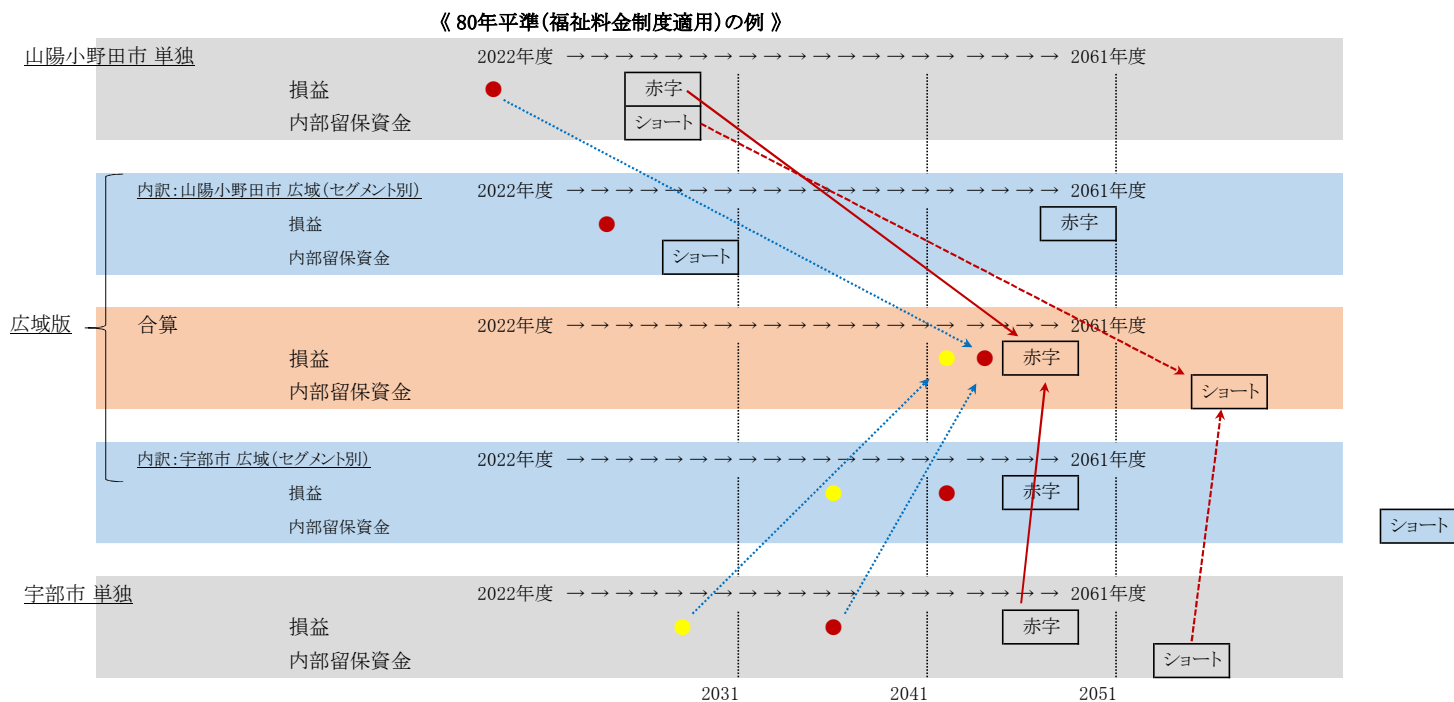
内訳	広域(A)	単独(B)	差引(A-B)
宇部市	64,178	65,184	-1,006
	27,922	31,206	-3,284
山陽小野田市	92,101	96,391	-4,290
	27,860	30,120	-2,260
	14,398	13,572	826
	42,258	43,692	-1,434

検討委員会での確認事項 [その2]

5. 財政シミュレーションの試算結果(2022年度～2061年度、40年間)

《試算条件》

- ① 給水人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計による。
- ② 有収水量は、実績を基に推計した。
- ③ 宇部市の福祉料金制度は、広域化では山陽小野田市にも適用した。
- ④ 職員数は、宇部市は90人、山陽小野田市は55人とした。
- ⑤ 広域化で見込める職員の削減25人は、宇部市9人、山陽小野田市16人とした。
山陽小野田市16人のうち11人は、高天原浄水場廃止による。
宇部市は、9人とは別に中山浄水場廃止により12人削減見込
- ⑥ 建設改良費は、既存の計画により計上した。
それ以降は、アセットマネジメントで算出した更新需要額により計上した。
更新需要額は、60年平準と80年平準それぞれで試算した。
- ⑦ 広域で共同使用する施設に係る建設改良費は、有収水量比で按分し計上した。
- ⑧ 企業債償還金、企業債利息は、40年償還で計上した。
- ⑨ 宇部市の水源かん養基金への積立は、廃止した。
- ⑩ その他は、実績を踏まえて計上した。



(注) ● … 損益の額が2億円以下となる時期
● … 損益の額が1億円以下となる時期